

自然災害が起きたらどうするか ～被害状況の把握と住まい～

どなたでも無料で
ご参加いただけます

日時 2016年
8/4 (木) 14:30～16:45

会場 **東洋大学川越キャンパス
4号館4階 第1会議室**

※会場までのアクセスは裏面をご覧ください

講演会スケジュール

- 14:30～14:35 挨拶：工業技術研究所 所長 川口 英夫
- 14:35～15:35 [講演1]

日本の自然災害を迅速に把握する ～活躍する最新測量技術～

東洋大学 理工学部 都市環境デザイン学科 助教 久保寺 貴彦 くぼでら たかひこ

[講演概要]

日本は、台風、地震などによる自然災害が非常に多い国です。最近では「平成27年9月 関東・東北豪雨」や「平成28年（2016年）熊本地震」が発生しました。被災地域は壊滅的被害を受けて、復旧工事が進んでいます。復旧工事以前に、被害状況を迅速に把握する必要があります。本講演では、被害状況を迅速に把握する航空機、人工衛星、電子基準点などによる最新測量技術を紹介します。

[講師略歴]

2001年 中央大学理工学部土木工学科卒業
2006年 中央大学大学院理工学研究科博士後期課程土木工学専攻修了
中央大学助手、日本大学非常勤講師、専門学校教員などを経て
2016年 東洋大学理工学部都市環境デザイン学科助教 現在に至る
博士(工学)、測量士
土木学会土木情報学委員会小委員会 委員
土木学会舗装工学委員会小委員会 委員



- 15:45～16:45 [講演2]

超高齢社会と災害時のすまい

東洋大学 理工学部 建築学科 助教 富安 亮輔 とみやすりょうすけ

[講演概要]

生活を支える三要素は「衣・食・住」と言われています。大規模災害という非日常の場面に遭遇した時こそ、これらの重要性は顕在化します。特に高齢者や障がい者等は環境変化の影響を受けやすく、住まいについて一層の配慮が求められます。我が国における災害時の仮住まい、つまり仮設住宅の実態について、超高齢社会と関連付けて紹介します。

[講師略歴]

2004年 東京大学工学部建築学科 卒業
2007年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程 修了
2007年 株式会社アルコム(現、株式会社長大)設計部 入社
2014年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程 修了
2014年 岩手県立大学社会福祉学部 日本学術振興会特別研究員(PD)
2015年 東洋大学理工学部建築学科 助教 現在に至る
一級建築士 博士(工学)



主催：東洋大学 工業技術研究所

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100 E-mail: kougiken@toyo.jp TEL: 049-239-1322 FAX: 049-232-0981

裏面が申し込み用紙になっております
(当日参加も可能ですがお申込み頂きますと受付がスムーズです)



FAX: 049-232-0981

E-mail: kougiken@toyo.jp

東洋大学工業技術研究所まで

※E-MAILの場合は、下記の事項をメール本文にご記載ください

工業技術研究所 講演会 参加申込書

企業／機関名 (一般の方は記入不要です)	(フリガナ)		
ご住所	〒 ー ー		
電話	ー ー	FAX	ー ー
E-MAIL			

★お願い★

会場の駐車場には限りがあります。
公共交通機関のご利用にご協力をお願いいたします。

参加希望者	
役職名 (一般の方は記入不要です)	氏名
	(フリガナ)
	(フリガナ)
	(フリガナ)

※ご案内の送付先に誤り・変更がございましたらご記入ください

会場までのアクセス

東洋大学 川越キャンパス

〒350-8585 埼玉県川越市鯨井2100

東武東上線 鶴ヶ島駅下車 東口から 徒歩約10分(新西門まで)

東武東上線 池袋駅→鶴ヶ島駅 急行約38分/準急約45分

東武東上線 川越→鶴ヶ島駅 約8分

